

私は日本から帰ってもう半年が経ちました。その一年はとても印象的で、今振り返ると本当に行っていた良かったと思います。でも、いのもそう思っていたわけではありません。

誰かに認めてもらいたい、日本人の友達を作りたいとか日本語をペラペラ話せるようになりたいとかいった理由で留学をすること決めました。そして他の多くの学生も私のような目的で留学していました。でも同じ目的で行ったとしても、いのも同じ結果が出るわけではありません。逆に、とても違う結果がでたように思います。その原因はいったい何なのでしょうか。

それは結局自分自身によると思います。もちろん、留学プログラムの教授も学生の留学経験に影響があります。しかし、そのプログラムは自分に合うかどうか、どのプログラムが一番ふさわしいかについての選択は最後に自分自身が決めることです。自分自身が留学の経験に責任を持っています。つまり、私たちは留学を成功させるための責任もあります。でもそういう責任が自分にあること

はよく忘れられてしまいます。最初  
の頃は街でぶらぶらするだけで楽しかった  
し、日本語の練習ができて嬉しかったです。しか  
し、そのあとから辛い時を乗り越えるために自分  
の考え方も変えなくてはならなくなりました。例  
えば、写真を取られた留学生の友達、「鬼外人」  
と言われた友達、お店に入る時も英語で話し  
かけられた友達、電車の中に周りの人から変な目  
で見られた友達。こういう話を何回も聞いたこと  
があります。「なんで私が外国人だということも  
毎日知らされなければならぬの」という不満も  
よく聞いたことがあります。確かに最初はそう思  
いました、またそのようなことをいつも聞いてい  
ると落ち込んでしまいました。でもその次どうや  
って乗り越えるか、どのような行動をするのか  
が大切だと思うようになりました。ある人はすべて  
の日本人を責めて、日本人の根本的な問題だとい  
うことにしました。そうすると外国人のサークル  
から避けられなくなりました。ある人はいつも自分  
の国と日本を比べ「私たちの方がマッだよ」と決

めてしまいます。つまりそれらはある不満な状況  
から遠ざかりたいという気持ちから言っている場  
合が多いです。また全部白か黒かで説明しようと  
する人もいます。一方で、その出来事を受け入れ  
て言葉や行動で自分自身をかえりみて、「郷にい  
れば郷に従え」という気持ちで、オープンな考え  
方を持つ人もいました。またまったく別のタイプ  
の人もいます。新しいことをまず挑戦してみるの  
が当たり前だと思っている人。そんな人はものごと  
くも深刻に考えないようにする人で、よく失敗も  
します。でもバカに見えても、とにかく何でも挑  
戦してみたいタイプです。

私の経験から見ると、そういう人たちは留学の  
経験が一番楽しむことができたように思いました  
。そういう人たちはステレオタイプや周りの人か  
らの否定的な日本人・日本社会へのコメントも気  
にしないでいました。私もそういう人たちを見て  
私も、誰かに手伝ってもらうより自分の努力で最  
後まで進むしかないと思い始めそういう人たちを  
できるだけ真似するようになりました。自分が当た

り前だとも思ったことから少し離れて見たかったの  
です。

そうしたら、留学の本当の目的は、外国人の友  
達をつくることや上手に話せるだけでなく、自分  
の世界をもっと広げることではないかなと思うよ  
うになりました。留学はある国を自分の理想的な  
場所に変えるのが目的ではなく、理想的な場所に  
するためには自分自身がどう変わるか、何がこの  
国から学べるかではないでしょうか。自分の考え  
方を少しでも変えれば、新しい状況になり、悪い  
状況の中にも必ず良いもの、その国の良いところ  
を見つけ出すことができるのではないかと思います  
。少しでも違う目で周りを見て、前気づかな  
かったことや小さなことがちゃんと見えるようにな  
ります。それはその人自身が変わらないうちに始ま  
らないと思います。自分自身と戦って自分の理想  
的な場所をつくっていくのが留学の楽しみの一つ  
ではないかと、今そう思っています。